

南方系のチョウで、秋になると幼虫の食草であるダイズやエンドウマメの畑でよく見られます。関東地方の冬は寒いために卵は越冬できず、毎年見られる個体は西から世代を重ねながら飛んできたものです。しかしながら、最近春に目撃される事例が少数出てきており、地球温暖化に伴い越冬が可能となり、見られる時期が増える可能性もあります。この時期に見られるシジミチョウは何種かいますが、本種は和名の通り翅の裏側に波状の細かな模様があることや、他の種よりも一回り大型で雄の表面は紫色である点から容易に区別できます。翅の裏面の後方には黒い小さな斑紋^{はんもん}がありますが、その中に水色に光る部位があり、宝石のような美しさがあります。

神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員 渡辺恭平



ウラナミシジミ(表)



ウラナミシジミ(裏)



◀おい自然園HP
大井町の動植物や虫、石、自然観察会の結果などを掲載しています。



◀自然NOWへの投稿
町内の身近な自然情報をお待ちしています。
※撮影は横位置で